四〇—五〇歲	一・五二	
五〇—六〇歲	一・〇九	
六〇歲以上	—	

年平均の人口分布は「ネップ」時代(一九二四—二六年)に生まれた一二—一五歲年齡級に於いて最も高い。また一歲未滿兒の總人口に對する割合は一九二六年に人口千に付三五・二であつたが、一九三一—三八年生まれ(本調査に於ける八歲以下)の年平均分布の三九年の總人口(一六九・五二百万)に對する割合は人口千に付二三・二となることとなる。一九二七—三八年生まれ(本調査に於ける一二歲以下)について同樣の計算をするとその年平均人口の總人口(三九年)に對する割合は人口千に付二三・六となる。一九〇九—二三年生まれ(本調査に於ける三〇—一五歲の者)の年平均人口分布が約四分の一も低下するのは前世界大戰、革命、國內戰爭及び饑饉時代(一九一四—二一年)の出產停止と死亡との結果であるは勿論で、この苦難時代の創痍はこの時代にこの靑年期を過した三〇—四〇歲年齡級にも窺はれる。が最も被害の甚しかつたのは世界大戰及び國內戰爭への參加者(本調査に於ける四〇—六〇歲の者)で、一九一四年乃至二一年に一六歲乃至四二歲であつた此の年齡級人口の年平均人口分布は一二—一五歲年齡級のそれに較べると僅かに其の四分の一乃至三分の一に過ぎない。

教育程度別集計

最後に教育程度別集計の主なる數字を揭ぐれば次の如くである。

	百萬	%
高等教育を受けたる者	一・一	〇・六
中等教育を受けたる者	一三・二	七・八
少くとも文字を讀める者	九四・五	五五・八
完全な文盲者	二五・二	一四・九
九歲以下の兒童	三五・五	二〇・九
計	一六九・五	一〇〇・〇

又ソ聯邦人口中讀み書きのできる者の割合を一九二六年との比較に於いて年齡及び男女別に示すと次の如くである。

ソ聯邦人口中讀み書きのできる者の割合(百分比)	一九三九年	一九二六年
全人口	九〇・八	六六・五
九歲以上 男	七二・六	三七・一
九歲以上 女	八一・二	五一・一
九歲以上 計	九五・一	七一・五
九—五〇歲 男	八三・四	四二・七
九—五〇歲 女	八九・一	五六・六
九—五〇歲 計	六四・五	四〇・六
五〇歲以上 男	二四・九	一一・四
五〇歲以上 女	四〇・九	二四・五
五〇歲以上 計		
都市人口	一九三九年	一九二六年
九歲以上 男	九五・七	八五・三
九歲以上 女	八四・〇	六七・六
九歲以上 計	八九・五	七六・三
九—五〇歲 男	九七・六	八八・〇
九—五〇歲 女	九一・〇	七三・九
九—五〇歲 計	九四・二	八〇・九
五〇歲以上 男	八二・二	六七・五
五〇歲以上 女	四六・五	三五・九
五〇歲以上 計	六一・一	四九・三
農村人口	一九三九年	一九二六年
九歲以上 男	八八・二	六一・九
九歲以上 女	六六・六	三〇・〇
九歲以上 計	七六・八	四五・二
九—五〇歲 男	九三・八	六七・二
九—五〇歲 女	七九・二	三五・三
九—五〇歲 計	八六・三	五〇・六
五〇歲以上 男	五六・九	三五・六
五〇歲以上 女	一五・八	六・三
五〇歲以上 計	三二・三	一九・六

（埋め草）

出生增加策の重要性

—人口政策確立要綱の趣旨達成の爲に—

『また他民族の人口增殖力と比較してみましても、死亡率を目標の如く低下しただけでは、日本人口の純再生產率は現在の一・二に對して〇・三を增して一・五となるだけでありますが、その反對に出生率が增加するだけで死亡率が低下しなかつた場合には、純再生率は〇・六を增して一・八となります。そしてそれだけで既にソ聯邦の純再生產率一・七を凌駕することになります。從つて今日の死亡率が今後少しも下らないとしても、出生增加の目標が達成されさへすれば、日本人口の增殖力は今日のロシアのそれを凌駕する事になるのであります。』

（第十二回人口問題同攻者會合に於ける美濃口調査官の報告より）